

今日のトピック 米国地方債市場の動向 (2017年8月)

相対的に高い利回りを背景に、良好なパフォーマンス

ポイント1 良好なパフォーマンス 年初来では投資適格債を上回る

- 米国地方債トータル・リターン指数の上昇率を8月18日までの年初来で測ると、課税債が+6.7%、非課税債が+4.9%となりました。ともに投資適格債の+3.7%を上回り、課税債についてはハイールド債の+5.4%をも上回りました。
- 非課税地方債とは米国の居住者にとって利金に対する連邦税などが免除される債券、課税地方債とは免除されない債券です。日本人の主要な投資対象となるのは課税地方債ですが、日本のように米国と租税条約を締結している米国外の居住者は、非課税債よりも利回りの高い課税債の利金についても税金が免除されるなどの優遇措置があります。

ポイント2 相対的に高い利回りが魅力 国債を2%弱上回る地方債利回り

- 地方債の良好なパフォーマンスは、低金利環境が続くなか、相対的に高い利回りが評価されたためと考えられます。
- 参考までに、直近8月18日の利回りは米国債の2.13%に対し、地方債は4.01%となっています(国債利回りはブルームバーグ・バークレイズ指数の残存期間7-10年、地方債はBond Buyer社算出の40種平均)。

今後の展開 地方債は堅調を維持しよう

- 米国では景気拡大が続くと予想されます。金融緩和の解除も継続される見通しですが、インフレ率が低い水準で落ち着いているため、緩やかな速度で進められると考えられます。
- 従って長期金利は当面のところレンジ内での推移となる見通しです。こうした状況を踏まえると、相対的に利回りの高い地方債市場への資金流入は継続する可能性が高いと見られます。

【米国地方債、社債のパフォーマンス】



(注1) データは、2016年12月31日～2017年8月18日。
(注2) 指数はすべてBloomberg Barclays債券トータル・リターン指数。リターンは課税前のベースで計算。2016年12月31日=100として指数化。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【米国地方債、社債、国債の利回り】



(注1) データは、2016年1月1日～2017年8月18日。
(注2) 地方債はBond Buyer社算出の40種平均。国債利回りはブルームバーグ・バークレイズ指数の残存期間7-10年のもの。
(出所) 各種資料を基に三井住友アセットマネジメント作成

ここも チェック!

2017年8月18日 『FOMC議事要旨』金融市場の動向にも配慮
2017年7月31日 米国のGDP成長率 (2017年4-6月期速報値)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。